

平成21年度 実践目標自己評価結果報告

テーマ	学力の向上と中途退学者の減少
目標（ねらい）	生徒個々の学習能力を高め、活力のある高校生活の実現を図る。

A：良くあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

分類	評価の観点	評価項目	実践目標	A	B	C	D
学校運営	教職員連携	教員・教科間連携状況	教員間教科間の互換理解がなされ、信頼関係の基づく教育活動を進める。	14% 6	33% 14	48% 20	5% 2
		会議の有効性	職員会議をはじめ各種会議を有効に機能させる。	13% 5	34% 14	50% 21	3% 1
生徒	生徒支援	学習指導について	学習指導において生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行う。	31% 13	48% 20	21% 9	0% 0
		進路指導について	生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができる支援体制を整える。	29% 12	57% 24	14% 6	0% 0
	生徒指導	生活指導について	生徒の生活指導において、教員の統一した見解を持ち、指導にあたる。	19% 8	41% 17	40% 17	0% 0
		家庭との連携状況	生徒指導において、家庭との連携を密に行い。信頼関係を築く。	36% 15	55% 23	9% 4	0% 0
教育	生徒会活動	生徒会活動支援状況	生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できる支援を行う。	31% 13	53% 22	15% 6	1% 1
	その他	部活動	強化クラブを中心に部活動を活発化させ、学校の活性化を図る。	55% 23	33% 14	12% 5	0% 0

学校長所見	平成21年度学校自己評価として上記目標を定め、教育活動を展開しました。学習指導での創意工夫、家庭との連携及び強化クラブを含む特別活動においては、本校の良き伝統が継承され、評価できる結果となっています。また、教員、教科間、生活指導面での意思統一や会議の有効性は改善の兆しが見られます。次年度に向けては、更なる意思疎通の拡大に努めます。
改善方策	平成22年度の改善方策には、まず、生徒実態のさらなる把握に努めることで、問題点の職員間での共通認識を持ち、組織総体として課題解決の涵養に努めます。そして評価が比較的高い、部活動の活性化や生徒会活動については、本校の強みと認識し、更に他校との差別化を図り、生徒募集の重要な要素とします。また学習指導の充実とともに、生徒実態に即した授業を実践することで、個に応じた学習指導ができるよう心がけ、進路指導への発展に結び付けていきたいと考えます。